

## FFなら交流会・報告

吉川 利文

秋も深まった11月3日、フレンドシップ・フォース（FF）奈良の会員43人が、当会との交流のため、ならやまを訪れた。

FFって聞きなれない団体のため、当会の中には、戸惑いがあったのは否定できない。FFは、各国に作られた支部同士がホームステイをし合うことで異文化理解を深め合おうという、一種のボランティア活動である。海外に目を凝らしすぎるためか、ともすれば足元に無知、無関心となりがち。そこで、目的は違っても同じボランティア団体の当会と交流し、学び合おう、というのが交流会の主旨。

FF奈良は今年、高齢化対策の一つとして、準会員制度を設け、次世代養成に着手した。子育て世代の準会員と古参会員との触れ合いも狙いがあった。「小さな子の参加OK」と呼びかけたら、43人のうち、子供が16人。うち小学生が2人で、あとはなんと乳幼児。シニア会員、準会員とチビっ子たちの「三世代参加」となった。

午前中は親子で芋掘り。イモの重さ、蔓の長さ、形の面白さでコンテストし、トップグループに色紙やミカンなど賞品がどっさり。子供たちは有頂天だった。午後からは、大人は里山探訪、子供たちは西池で水生生物の観察と虫捕り。里山では、



辻本事務局長のガイドが「面白すぎ」と大好評、池では、説明役の羽尻副会長がドボンと転落したのに

ズブ濡れのまま説明を続ける姿に、子供はあつげにとられ、付き添いの親たちは感動しきり。

FF奈良では、しばらくはこの交流会の話題が絶えず、「ならやまの人たちは親切で優しかった」「また行きたい」と評価は絶大だった。

12月・月例研修会

## 「北・山の辺の道を歩く」

八木 順一

凍りつくような朝になった。10キロ余りの行程、大丈夫かなと思っていたが、参加者も25名を数え、びっくり。早速円照寺までバスに乗る。参道の途中で今日の日程やコースについて説明を受けた後、軽いストレッチ体操を行う。この頃から、日差しが出てきて、少し暖くなる。やっと一息つける様になった。そして、11時には最初の円照寺に到着。

ここでは、大和三門跡の一つであることや華道山村流の家元であること等の説明を受けた後、崇道天皇陵へ。天皇陵の由来を聞いた後は、小高い丘や

刈り取りの終わった田んぼ



等の中の山の辺の道を一路北に向かう。途中には嶋田神社や八阪神社など由緒ある神社がそここにあり、歩む足もしばし止まる。加えて植物に興味を持つ参加者も、道端の花や木の実等々に興味津々で、更に歩行スピードも緩む。しかし、こういった体験も、研修の重要な中身になり、更に沢山の参加者を集める機会となるだろう。そして、2時間余りのハイキングの後、昼食予定地の白毫寺下の公園に到着。ここでは30分余りの昼食時間だったが、かなり気温も下がり、座っているのも苦になるほどだった。

そして、1時半過ぎには近鉄奈良駅を目指して出発したが、行程はまだ半分。ここからも、新薬師寺や鏡神社を見学・参拝しながら、深い春日原生林の中を最後の春日大社へ足を伸ばす。ここでは中国や東南アジアからの観光客が多いせいか、あちこちで外国語が飛び交う。参拝をした後、15時30分に近鉄奈良駅集合を約束し一応解散。寒くて長い道のりの12月研修ハイキングも無事終了した。